

夢よいろいろがれ

もっと

10

発行・編集
いぶきファミリー
(いぶき福祉会後援会)

〒502-0907
岐阜市島新町5番9号
TEL. 058-233-7445
FAX. 058-232-9140
E-mail. ibuki@alto.ocn.ne.jp

2018年10月20日発行

カフェドギャラリーアダチにて
しぜんのいろ、いろいろ展。



もくじ

- 2 スポーツ大会参加報告
- 3 シリーズ…私と息子といぶきと
- 4・5 第二いぶき夏まつり報告
- 6 ごんのしま共同作業所開設
- 7 しぜんのいろ、いろいろ展開催報告
- 8・9 仲間のすがた
- 10・13 シリーズ…座談会・きようされん全国大会参加報告
- 14 ショートステイセンターいぶき開所・上映会&講演会のご案内
- 15・16 情報掲示板

暑かった夏も終わり、すっかり秋めいてきました。いぶきの仲間も、小旅行やスポーツ行事に参加したりイベント出展するなど、おおいに盛り上がっています。写真は関市のカフェドギャラリーアダチにて開催された展示会の様子です。素敵なお場所に、いぶきの優しい自然のいろの商品がたくさん並びました。これからも、いろいろな人たちのつながりを大切にひとつひとつ活動していきたいと思っています。

2018
Autumn
Vol.196



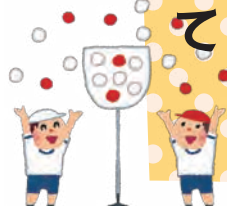
第16回スポーツ大会に 参加して

(旧ドリームスポーツ大会)

今年もスポーツ大会に参加をしました。

岐阜県内から参加者が集まり競技を行うだけでなく、各施設が出店するバザー会場には、授産品などの販売やミニゲームなどが楽しめるふれあいコーナーがあり毎年大変賑わいます。

いぶきでもみんながとても楽しみにしているイベントのひとつになっていて



大会が近づくと「今年は玉入れに出るよ」「バザーなにかあるかな？」など話題になり盛り上がりま

した。前日の天気予報では雨も心配され陸上競技がなくなるのではと思われましたが当日は天候にも恵まれ登録していたすべての競技に参加することが出来ました。

大玉ころがしでは、10人のチームを作り2人1組となりリレー形式で競い合います。最初の競技だったこともありスタート前に

「がんばるぞー！」と気合を入れ競技に臨みました。結果は第3位と健闘し、みんなも晴れやかな表情でした。

玉入れでは、20人で1チームを作り、かごに入れた玉の数を競います。競技中の応援にも「いぶきがんばれー！」と熱が入り



アキュラシーで活躍した神谷さん

ます。結果は第3位とこちらも大健闘し、お互いに称える姿も見られました。

フライングディスクには輪に入れる回数を競うアキユラシーと投げた距離を競うディスクタンスの2種類があります。アキュラシーではセリングの神谷は

るみさんが第1位、ディスクタンスでもライラックの竹村勝弥さんが第1位と素晴らしい活躍でした。2人とも1位になったことを誇らしげに周りに報告をしていました。

空き時間にはバザー会場に行くこともできました。軽食やお菓子だけでなく、射的などもあり「射的でたくさんお菓子とったよ。」「いっぱい食べたよ。」とお祭りのような雰囲気で購入物を楽しめました。

今年も怪我や事故などもなく大会を終える事ができました。大会では日頃なかなかふれあえない仲間同士で上位をめざしたり、他の施設に拍手や声援を送るなどスポーツを通して



ディスクタンスでグループ1位を受賞した竹村さん

また、大会だけでなく日々の活動でもこのような共有できる時間を大切にしていきたいと思っています。

西部事業部 古川祐太



みんな思いおもいにお買い物を楽しみました。



牧野家の第二子として、平成7年10月17日に予定日より1ヶ月早い誕生でした。

生後一週間で、産院より県病院新生児センターへ転院となり、一ヶ月の入院となりました。

センターの担当医より息子が「ダウン症」と告知され、夫婦共に衝撃を受けたのを覚えています。センターで保育器内の何本もの電線に繋がれた姿にもショックでしたが、沢山の保育器、全てに小さな姿が見



られ障がいの種類の多さについても学びました。

まだ祐己が幼少の頃から、妻が奔走し希望ヶ丘にて機能訓練等を受けていました。その後は成長するにつれ、恵光学園にてことの教室で発声訓練などなど…したハズ？

言葉遣いについては、未だによくわからない（本人は発音しているらしいですが）



年中から岩保育園に、卒園後は芥見小学校に入學しました。一年生は通常

学級で過ごし親子共に苦しい一年となりました。二年生より特殊学級（みのり）となり、六年生で卒業まで教頭先生にお世話になりました。藍川中学校にも特殊学級（桜）があったおかげで卒業する事ができ、ありがたかったです。

県立中濃特別支援学校に入學出来たまでは良かったのですが、通学には路線バスを利用して、しかも途中で乗り換えまで有るとのことでしたのでさあ大変デス！バスに、しかも一人で一般の路線バスに、祐己が？そこで妻が、バス停から車で追跡し乗換するまで見届けを一ヶ月位続けていた様です。乗り過ぎも有ったみたいです。

中濃では職業訓練を受けて技術を身に付け、同級生や先生との絆を深めることができたと思いま

す。又小学校より続けているスイミングスクールの経験を活かして水泳部に入部してダイエットし体型の維持？に努める事ができたと思うけど。（本人にとっては大変だったカナ？）

卒業後はおかげ様で「いぶき」に通所させて頂き今日に至っています。い



ぶきでの様々な仲間との触れ合い、職員の皆様との関わり（ご迷惑をおかけしていると思います）で「一つ祐己に変化「成長？」が、母親ベッタリだったのに外泊できる「シヨートステイ」により家族以外の人と外泊（今の



ところ一泊ですが）この先は日数を増やせば？自立に繋がればなーなんて甘い考えが頭によぎります。現実には甘くありませんが。

祐己が帰宅して来ると先ずは今日の昼食は、何とかを食べて美味しかった。から始まりどここへ製品を納めに、職員さんの誰々さんで行ってきたよとか、今日は何々ジャムを作ったよ、などの報告を嬉しそうにしてくれます。こんな祐己ですがよろしく願います。

牧野 淳一



第19回 第二いぶき なつまつりを終えて

テーマ…心おどるなつまつり
～みんなで楽しもう～



今年も大盛況のなか第19回第二いぶきなつまつりが行われました。今年には記録的な猛暑の中、のまつりとなりましたが、たくさんの方にご来場い



ただき、無事に開催することができました。当日は地元の方々や、多くのボランティアの方々にご協力頂き内容盛りだくさんでとても盛り上がり、皆が楽しめるまつりとなりました。例年通り当日は数多くの



夜店が出店しました。まつりならではの、フランクフルト、唐揚げ、ジュースといった飲食から風船釣りやクジなどの楽しめるものまで、お客さんが屋台の前にたくさん並び、終始活気をみせていました。

また、仲間自身も店番を行い、この日に向けて作ったお菓子や日頃製作している商品を仲間の店のブースで販売を行いました。仲間たちは練習していたように自信を持って自分達で作った商品の紹介を



行いました。そしてたくさんさんの商品が売れるように一所懸命声を出して呼びかけ、商品を買っていたという思いがあふれていました。皆さんが笑顔で商品を手

に取ってくださることがうれしく、お客様とのやり取りを通していつもの生活とは一味違った貴重な体験ができました。また、今年仲間と企画した魚釣りゲームも大盛況で、子どもたちを中心にたいへんにぎわいました。釣った魚が手元に来るま



でのドキドキ感と釣れたときの喜びを一緒に楽しみました。ステージでは今年も各協力団体の皆様にまつりを盛り上げていただきました。オープニングは今年も勇爽太鼓さんのパフォーマンスです。力強い演奏と心地良いリズムの太鼓の音で雰囲気は一気に祭りモードに。演奏の後には太鼓との触れ合いの時間をいただきました。なかなか触る事のない大きな太鼓の振動を体で感じながらたたくことはとて



モがダンスを始めると、参加のみなさんも曲に合わせて一緒に踊ったり、リズムに合わせて手拍子をしながらかつてくれる方も多く、会場が一体となるステージとなりました。ステージの合間にはミナモが会場内まで入ってき



も良い経験となりました。そして、今年はミナモもきてくれました。ミナモダンスの音楽が流れミナ

はおなじみの曲に合わせて踊る姿に会場内は笑いに包まれました。ステージの最後は仲間による踊りです。V6の『WAになつておどろろ』となりのトトロの曲に合わせて、日ごろ練習していた成果を発表しまし



てくれました。室内でまづりに参加している仲間や職員と触れ合ってくれたり、仲間の店で売っているミナモビスケ入りのパフェを宣伝してくれました。また、毎年恒例になっている保護者や職員の踊りで



た。最後はステージ上で輪になって終了しました。温かい声援の中、皆さんと歌って踊れる幸せを感じました。今年の夏まつりは心おどるまつりと題して、私たち



アの皆さんをはじめ第1回からおおよそ20年近くもほぼ毎年、お越しただいた方、お手伝いただいた方もたくさんいます。準備から当日まで本当にたくさんの方々にご協力いただきました。当日、皆さんと笑顔になれたことを思うと心おど

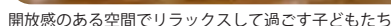


もお客さんも含め、たくさんの方々と楽しみを共有したいと職員・仲間と準備を続けてきました。地元の方々や出店団体、ステージ団体、ボランティア

る祭りにできたと思います。そして、楽しい時間を共有できたことがうれしく思います。皆さんと一緒に今後も続けたいと思います。また、来年もお会いできることを楽しみにしています。ありがとうございました。

北部事業部 森 洋三





『ごんのしま共同作業所』開
昨年度、岐阜市近島にある土地・建物を取得し、
改修工事を行ってきました。工事が完了し、今後
たくさん仲間が通う拠点としての運営をして
いきます。その一環として、まずは9月より放課
後等デイサービスが移転しました。



す。この移転の話がきたとき、正直我々たーぶるの職員は不安な思いが強く、前向きな気持ちを持てませんでした。というのも、子ども達の中には、新しい環境や場所を受け入れにくい子もあり、果して移転先で過ごすことができるだろうかという思いがあったからです。

移転するにあたり、まずは事前に子ども達一人ひとりに、いつ、どこに、だれが引っ越しをするのかという話しをしました。たーぶるの活動場所となる2階のフロアには、まだ収納棚しか置いていない状態でしたが、子ども達に見通しをもってもらえるようにと、移転する2週間前からまず見学に行くことにし

[illegible]

一生懸命に床の掃除をしてくれました。

になりながら、「ここが僕たちの新しいお部屋になるんだね。きれいにしなきゃ」と広いフロアの隅から隅まで雑巾掛けをしてくれました。なかには障がいの重度な子どももありますが、周りのなかに刺激されて、一生懸命自分のできる範囲で掃除をしてくれました。

ひと通り掃除を終えた後にひとり一個ずつ、たーぶるの部屋にある好きな玩具を近島まで運んで、引越し作業の体験もしてもらいました。棚しかなかった部屋にひとつずつ、みんなが持ってきた玩具が運ばれることで、まるで玩具がパズルのピースのように組み合わさり、普段の見慣れた空間にかわっていききました。

子ども達も最初の不安そうな表情から、だんだんと安心した柔かい安堵の表情になって、自然と笑顔がこぼれるのが分かりました。

いよいよ9月3日の近島の開所日となり、子ども達の反応が心配でしたが、その

心配をよそに、今までよりも広くなった活動スペースに寝転がってみたり、普段から使用している玩具で遊んだりと、天真爛漫に過ごす子ども達を見ることができ、安心するとともに、子ども達の成長が感じられとても嬉しく思いました。

私たちの役割として、活動の場所は代わったとしても子どもたちにとって安心できる場所を提供するという点においては今までと何ら変わりありません。これからもしっかりと子ども達のたくさんの笑顔とたくさんのかんがえを引き出せるように、職員一丸となって取り組んでいきたいと思えます。

西部事業部 伊藤 慎悟



新しいた一ぶるのお部屋が完成！



色とりどりのかわいいアクセサリがならびました。乙女心をくすぐるデザインの数々。

した。来場者からは「なんてきれいな色……。草木染めでこんなにたくさんのお色が出るんですね!」「作られる工程や思いをうかがい、愛着がわき

この展示会では短い時間ですが、仲間自ら店頭

働く仲間一人ひとりが担っているシゴトから役割を感じ、誰かと一緒に働く喜びを感じ、お互いの存在を認めていくことができ

北部事業部 初瀬尾 久美子

「しぜんのいろ、いろいろ展」は今年の1月、5月、9月と関市にあるカフェドギャラリーアダチで開催してきました。会場では百々染をはじめ、草木染めで染めた木綿ストール、トートバッグや羊毛フェルトで作ったブローチ、ピアスなどのアクセサリーの展示販売をしました。

とりどりの模様や形のフェルト。たくさんのお色とカタチ、素材、そしてモノづくりをする仲間たちと来てくださるたくさんの方がいろいろなお色でつながりますように……。この展示会のタイトルには、そんな想いや願いが込められています。

また写真パネルにした仲間たちの笑顔を褒めてくださる方も!そして来場された方の中には障がいのある子のご家族もいらつしやり、一助になれば……と商品を購入して

立つこともできました。自分たちがつくったモノが並び、それを手にとって買ってくださいるお客さまがいること、その様子を見ることが、感じることでできることで嬉しい!という気持ちがあふれ、それを表現してくれる仲間もいます。またこうして商品が流通していくことで、給

店頭に立つ私たち職員も来てくださるお客さまのあたたかい言葉やお褒めの言葉がとても嬉しく、いぶきの仲間たちが仕事に取り組む日々がこのようにたくさんの方に知っていただけたことは大変貴重な機会となりました。



しぜんのいろ、いろいろ展 開催報告



ギャラリー内のような。百々染のグラデーションが美しい。



仲間も店番に! 百々染のストール、いかがですか?





仲間のすがた

もとやま
ゆきやす
本山 恭康さん

西部事業部 森本 結衣



本山恭康さんは、2012年度の冬から放課後等デイサービスたーぶるを利用し、卒業後いぶきのあかねに通って4年目になりました。人と関わるのが好きで、仲間たちと笑顔で元気に活動しています。

私が本山さんとあかねで過ごし始めた3年前にチームの編成のため、職員の入れ替わりや部屋の移動があり、本山さんにとっても不安なスタートでした。それでも新しい職員とも一緒に楽しみたい思いを持って関わろうとする姿がありました。しかし、私たちが本山さん

の思いを理解するまでに時間がかかってしまい、伝えたいことをうまく汲み取ることができないこと



久しぶりの畑仕事。玉ねぎの収穫をしました。

が多くありました。本山さんは好きなキャラクターや人や物の名前をジェスチャー(クレヨンしんちゃん)は眉毛を人差し指で指すなど)や言いやすい言葉(「いちご」のことを

「ご」と言うなど)で表していました。うまく伝わらないと前年度から関わっている職員に助けを求め、それでもうまく伝わらないと激しく頭を壁や机に打ち付けることがありました。そこで、本山さんと一緒に伝えたいことを探りながら思いを汲み取るこ

とができるようにやりとりを大切にしてきました。やりとりをしながら分かりあつていくという経験が本山さんにとって良い経験になったようで、変わっていくきっかけになったよ

うに思います。

それから少しずつですが、自分の思いがすぐに伝わらなくても怒らずに伝え方を変え、何とか伝えようとする姿も出てきました。頑張つて伝えてくれようとする姿をみて、私たちもどのようになるとお互いより伝わるのかを本山さんと一緒に考えていきました。今までジェスチャーが多かったのですが、最近では言葉も多くなり良く使う言葉は発音もはつきりとしてきました。自分の思いが伝わる嬉しさが心の豊かさに繋がっているように思います。

また、これまでも周りのことをよく見ていた本山さんですが、今までは職員を通してや好きなキャラクターがついている服を通して仲間のことを見ていました。しかし、あかねで集団づくりを大切に日々



稲穂からもみを取り分ける作業をしました

の活動をしていく中で、徐々に仲間の様子を見て伝えてくれることができてきました。私たちも本山さんが伝えてくれることの思いの深さに驚かされることが多くありました。まだ出勤してきていない仲間を心配して外を指し、仲間の名前を呼んだり、外での活動中にくじけてしまった仲間の手を引き励ましたりと心優しい場面が増えてきました。また、初めていく場所で腰が引けて立ちすくむことも多かったのですが、仲間と



音楽療法の時間、手をたたきリズムをとります。

一緒にあれば入っていくことができるようになってきました。

最近では他の事業所を利用することもあり、ますます多くの人と関わる機会が増えています。その中で自分の思いを伝え、本山さんも仲間たちと一緒に楽しく過ごせることが増えていくように、支援を続けていきたいと思っています。そして、これからもより一層豊かな感性を育んで、笑顔あふれる毎日を通していつてほしいと思っています。

仲間のすがたを 読んで



辻本 隆太

本山さんと私の出会いは高等部3年生のころに通っていた放課後等デイサービスたーぶるの時です。この年に新人スタッフとして配属された私と、初めて遊んでくれたのが本山さんでした。人見知りと聞いていた彼に対して先輩のスタッフにエスコートされ、伝授されたのが「替え歌大作戦」でした。替え歌は、アイアイのメロディにワンピースのキャラクターの名前や、近くの本山さんの興味が向いているものをのせたものです。「チョップパ〜ンチョップパ〜」トナカイがしゃべるん

だよう」といった何でもある感じが、歌遊びなのですが、これが本山さん大好きで毎日声がかけられるまで何十回も歌っていました。そのお陰か、すぐに仲良くなれた記憶があります。替え歌のリクエストの



時、本山さんは独特のサインを出したり単語を話したり、一生懸命思いを伝えてくれます。しかし、やってほしい歌が相手に上手く伝わらないこともあり、その思いに対する反動からか、相手に手が出てし

まったり、床に頭を打ちつけたりといったこともありました。その度に「やってしまった」という表情を浮かべ、また次の日にはめげずにやらかしてしまうということも多々ありましたが、愛嬌のある

キャラクターで、みんなに愛されていたと思います。何せ卒業の時には、ガ

ラツと部屋の雰囲気が変わってしまい、その存在感の大きさから『恭康ロス』に陥ってしまいましたからね。そんな「シャイでお茶目さのある、やんちゃ坊主」という言葉が似合っていた本山さんも、

社会人になり大人の階段をしっかりと登っていることを森本さんの記事で読み、学生時代を知る者としてはうれしい気持ちでいっぱいです。特に、他の仲間に対する「思いやりの気持ち」が上手く伝わっていたり、優しさで表現できるようになっていくという姿は、口べたの私が勇気づけられたエピソードです。まだまだ綴りたいことはたくさんありますが、今回はこのくらいにします。明日、彼に会いに行ってきます。





シリーズ座談会

いぶきファミリー(旧後援会)の活動について

第1回

今回の座談会は、「いぶき福祉会の職員が考えるいぶきファミリーの活動について」話し合いました。参加者はいずれもいぶき福祉会職員でいぶきファミリー事務局を中心に右記のメンバーです。座談会の掲載は全2回のうち、今回は1回目となります。

● 横幕 嘉行 いぶき勤務 23 年 (ファミリー会長)
● 伊藤 慎悟 いぶき勤務 6 年 (事務局次長)
● 澤井 大輔 いぶき勤務 10 年 (事務局次長)
● 今尾 美穂 いぶき勤務 2 年
● 山本 友美 いぶき勤務 2 年
● 加藤 亮太 いぶき勤務 8 年
● 森 洋三 いぶき勤務 19 年 (進行)



※いぶきファミリーと旧名の後援会(いぶき福祉会後援会)がいろんな場面で出てきますが、今回は発言のままに記載しています。

横幕：長い間いぶきにかかわってきて、今回後援会という名前がいぶきファミリーに変わりました。私は後援会という名前で募金活動などをずっとやってきたので(名称を議論する中で)後援会という名前自体に違和感があるという(声が出て、議論があった)ことにとってもびっくりした。私自身は普通にやってきたから。後援会という名前が堅苦しいとかとつきにくいかという意見に少し衝撃でした。後援会活動はなくてはならないものですが、ファミリーという名前にまだ、しっくり来ていないのが本音です。**森**：じゃあ、役員会で大反対すればよかったのに。(笑)

横幕：いや、後援会という活動自体は変わらないし、みなさんで決めたことなので、そこはいいのです。**澤井**：ファミリーという名前に至るまでにいろんな候補がありましたね。意見集約の中ではファミリーは候補の一つで役員会の中でファミリーに決まりましたよね。

今尾：後援会という名前に堅苦しさを感じる人がいたということですか？

横幕：名前から後援会に入ると何かすごく使命感を感じる人もいたみたい。親御さんの中には後援会という名前だと会員に誘いにくいという部分もあったそうです。

森：後援会という名前がいぶき福祉会のみを応援するのではなくて、暮らしている地域の人や障害のある人たちも対象にしたいよねという意味もこのように意見もありました。

横幕：また、政治家を応援する会と勘違いや連想するみたいなこともあって、堅苦しくなくやわらかいイメージでなじみやすい名前にしたくて名称を検討して、ファミリーになりました。

伊藤：名称の意見集約の時に私はファミリーが良かったんですが、他の意見を押す人も多かったですね。

山本：なじみやすかったということがあったんじゃないですかね。

伊藤：いろんな年代の人には親しみやすい名前だったんだと思います。

今尾：私もファミリーが良くて、エグザイルのファンクラブがファミリーってみんなよくなくて(笑)。後援会ってイメージがしにくい部分があつて、アーティストや芸能人って意外とファンをファミリーと呼んでいるじゃないですか、だからいいかなと。

加藤：私は、みんなと違い、ファミリーって家族だからとても重く考えてしまつて。ファミリーって血の契りじゃないけどとても強い結びつきをイメージして、他人より強いつながりを感じてしまふ。

今尾：ちよつと怖い(笑)

加藤：そうなんですよ、とても重たくとらえてしまふ。応援したい人が家族になると思うと後援会っていう名称よりもとても重たい気がしちゃいます。家族だから絶対離れないみたいな。会員も更新しないと家族じゃないよねみたいに考えると**森**：裏切るみたいになつてしまふ。

加藤：そうなんですよね。いぶきは募金活動のたびに後援会員が増えてきま



したが、もちろん、末永く協力してほしいんですが、会員をファミリーとして誘うとなると私（にとつて）は重たい。なんか、気軽ではないイメージです。
山本：そういう風に捉える人もいますね。
澤井：役員会でも様々な意見が出てましたね。サポーターにするのかファミリーにするのかに最終的に絞られ、役員のみなさんは熱意がある方が多くて、サポーターは支えるから他人のイメージがあつて、もっと同じ立場で活動をしていきたいからファミリーにしたいという流れだったと思う。

森：エグザイルのファンから家族と同等の結びつきなどファミリーからいろいろイメージがされるんですね。
加藤：ファミリーという名前のもと、何を求められ、どうやって活動していくかと思うと、深く考えさせられます。
横幕：そこまで深くとは感じていなかったけど。
澤井：例えばライトにかかわりたい人はサポーター、それよりも少し進んで関わりたい人はファミリー、深く関わりたい人は後援会みたいに段階に応じて関われるのがあるというと思う。FC岐阜「ファミリーの役員」の林さんもおっしゃっていたけど、FC岐阜は段階に応じて関わってだんだん、深く関わっていきける仕組みがある。

加藤：ファミリーという名前はとてもいいのだけれど、やはり、（いきなり深くかかわるだけでなく、地域の人もかかわっていくのだから）、裾野が広がんだんだとかかわっているのが良いと思う。
山本：ファミリーという名前に込めた想いや活動趣旨などを分かりやすくして、知ってもらうことが必要ですね。ファミリーのスタンス的なものをきちんと話し合つて共有しておくことも大切です。通信でそのあたりも伝えられるとよいです。

森：いぶきファミリーもとても大きくなったので、全員の意見を集めて議論することが難しくなっていますね。今回の名称についても役員会できちんと話し合つて総会で決まったらけれども、みんなが十分意見を出しあつて議論するのは難しかったですね。関わる人が多くなつてくると、活動に対する温度差を感じることもあると思います。特に事務局の皆さんは伝える機会が多いのでよいいそんなことが多いと思います。そこら辺のところではなにか意見や苦労話などありますか？

伊藤：後援会の趣旨の中でいぶきの活動を通じて地域を支えていくというものがあつて、つなぐ・まなぶ・ささえる・つたえるなどの活動をしていると思うけど、そこに自分がどこまでかわれているのだろうかと思う時があります。今回、仲間がファミリーの会員に位置づいたので、イエローシートや募金瓶などを職員と仲間と一緒に活動していく形を作っていきたいと思っています。仲間と一緒に職員がどこまでやっているのか大きなポイントだと思っています。
山本：私はこれまでの後援会の活動のことを広報をやっていることもあり、先輩から聞いたり過去の記事を読んで知りました。後援会の歴史や活動内容をいぶき全体に伝わっていると良いと思う。組織が大きくなって伝える機会も少なくなっているのを目に見える形で残せるといいと思います。また、以前は後援会活動はいぶきの仕事が終わつてからじやないとできなかったと聞いて驚きました。

森：昔はこれは後援会、これは福祉会と明確に分かれていましたね。まだ、その名残はあつて整理できない部分は今もあります。それで職員が混乱している部分もたくさんあると思います。

横幕：法人は収益活動をしてはいけないという制度的なものがあつて、収益を上げるのは後援会が担うという形で明確に分けていましたが、今は福祉会で後援会の業務も担うことができるようになって



てきた。福祉会でやることは業務の中でやりましようということになってきますよね。

森：横幕さんがやっていた無認可時代は後援会の活動がないといけなかったですよ。というより後援会といふきという区分けもなくごっちゃになってやっていて、それがないと生きていけなかったですよ。そして法人化したときに運動の部分だけ別業務になって、また今回同じ業務でやっていきましようとなっていましたね。

横幕：法人化してからは後援会は別ということでは明確にしていたけど、今はだんだん厳しくなってお金がないから法人もお金を集めて自分で補ってやっていくのださいとなってきた。

森：私はいぶきに入った時から後援会は当然参加するもんだみたいな空気があって、全員がそうだったのでそんなもんかと思っでやってきたけど、組織が大きくなってくると後援会の担当が生まれて分擔するようになってきて、全員がという雰囲気でもなくなってきたいますよね。

山本：前は全員で後援会業務をやっていたの？

横幕：というよりも、全体数が少なかつたから全員でやるよりほかになかつた。最初は8人しかいなかった。第二ができて20人くらいだから、最初の方はみんなでするつきやないという感じだった。

森：後援会、きょうされんなどの担当はあつたけどみんなが何らかのかかわりをしていましたね。
澤井：昔はちょうどこれくらいの時間、18時頃か

ら物資の商品を仕分けし ましようと全体に呼びかけがあつてみんなですていましたね。

いぶきまつりなんか、土曜日や日曜日の夜に会議したり準備をしたりしていました。

山本：それは後援会の活動だから時間外でやっていたのですか。

森：そうですね。人によって多い少ないはありましたが、良い悪いではなく、それをやるということは普通でした。

横幕：いぶきのためだから当然やることという感じだった。

澤井：私は森さんから10年位ずれていますが、組織が大きくなつてくると、結束や意識が薄くなつて負担を感じる声も増えてきましたね。
時間外に、ボランティア的にやるのが普通で全く

説明もなく強制的な雰囲気を感じて「えっ」ってなる人もいましたよね。

森：今までいた人からすれば、当然やることなので説明はないよね。

澤井：そうですね。普通に定時が過ぎたのに続いて「？」となつて。でも上の人にはなかなか言えなくてみたいなのもありましたよね。

山本：今は人が多くなつて業務を分擔していますが、一部の人だけが関わっているといぶきの為なんだけど、担当者だけで抱えることに負担が大きくなつてしまふことがありますよね。

森：孤立しているという感じ？

山本：そうですね。後援会の活動内容もあまりはつきりとしていないこともあつて大変さもわかりづらいつた。

伊藤：今は職掌分擔があつて担当を振られているという意識がありますね。私は後援会担当じゃないから「関係ない」みたいな。山本：活動の内容がみんなにも伝われば、助け合いも出てくると思います。後援会以外の担当についても同じですが。

加藤：20周年の時に記念誌を編纂したのですが、いぶきの歴史をみると激動の時代をみんなが身を粉にして勝ちとつてきた歴史がある。そのときは行く場所がないとか住まないと生きていけない状況やそうやって福祉をよくしていかなければいけないというモチベーションがあつたと思う。だからこそ後援会活動も残つてでもやるしやらないと思進んでいけなかつたと思う。いぶきと後援会が同



じ身で、困難にぶつかって壁を飛ばしていく感じがしたんです。

私はいぶきで7年になりますけど、今は、後援会活動が行き詰まっている感じがするんですよ。お金に関して、すでに予算が決まっています、会員数は伸ばさないといけないけど、会員を増やしても自分たちの生活が変わっていかなくて。後援会の担当を振っていてもいなくてもいぶき自体は普通にまわっていく気がします。

また、決めたことで仲間たちの生活が良くなっていくという実感がなくて。まつりもこれだけの利益があつて仲間の生活がこれだけよくなりましたというものが乏しく感じます。

ボランティア的にやるにしても何らかの自分たちの充実感が欲しい。具体

座談会や通信に関する
ご意見、ご感想を
お寄せください。



〜次号に続く〜

的な目標の為にやろうというものがあるといいです。

山本：ファミリーの活動が仲間のためになっていまずよという報告があるといいですね。

森：やった感じがらないという話はよく聞くし、このお金は具体的にどのようになっているのかという声は聞きますね。

山本：みんな本当に一生懸命やっているのになにか目に見える形があると思うようになったという思いにつながりますね。

きょうされん 全国大会

IN京都

2018年9月21日〜22日にかけて第41回きょうされん全国大会I-N京都が開催されました。

いぶきもそれぞれの事業所がきょうされんに加盟していて、日ごろ運動や実践交流等を他施設と協力して行っています。

今回は次年度開催される愛知大会の準備のための視察と実践研修もかねていぶきから4人の職員が参加しました。会場となる京都国際会館には4600人を超える仲間と関係者が集まりました。全体が集まる開会式や基調報告などは大ホールがいっぱい

いになり、熱心に参加する人で大変な熱気でした。大会の中では、制度の目まぐるしい見直し、改正や中央官庁等での雇用率水増し問題等の報告に危機感を覚えながらも、それに振り回されずに障害者権利条約など仲間の本来の願いにそった実践を行っていく大切さを感じました。

また、全体を通じて大切にされていた、障害児の教育権保障を目指す運動から始まり共同作業所作りにつながっていく京都の障害者運動の先駆的な活動を感じる大変貴重な機会となりました。

最初でも触れましたが、来年、きょうされん全国大会は愛知で開催されます。愛知大会は愛知・岐阜・三重・静岡

の東海ブロック4県で協力して盛り上げていくこととなっています。愛知も京都と同じく深い歴史があり障害者運動のたくさんの方々の実践が行われています。愛知大会を東海ブロックの他県とともに岐阜支部で盛り上げるとともに愛知の深い歴史に大きな学びを共に得たいと感じました。

西部事業部長・
きょうされん事務局長
池田光巳





ショートステイ センターいぶき開所



平成30年10月より、西部事業部にて新たにショートステイセンターいぶきを開所しました。
いぶき福祉会では今までパストラルいぶきでショートステイの事業をしていましたが、希望者が多く、仲間が利用するのに回数が限られていました。これからは、西部事業部の仲間はショートステイセンターいぶきを、北部



事業部の仲間はパストラルいぶきを利用することが多くなると思います。
仲間が家庭から離れて自分でつくる生活を大切に、安心・安全にショートステイを利用してくれることを願います。
そして、仲間が利用して楽しかったな、また利用したいなという気持ちが増えるというホーム



ゆったりと、
楽しくすごして
くださいね。



なショートステイを目指していききたいと思います。
仲間は初めての場所で緊張すると思いますが、仲間力を信じ、表情を見ながら少しでも緊張をほぐす支援をしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。
西部事業部 古田洋右

上映会 & 講演会のご案内

呉秀三記録映画「夜明け前」上映会 & 「精神障がい者の地域支援活動について」^(仮) 講演会

日時 平成30年12月15日(土)
午前：上映会 午後：講演会

場所 メディアコスモス・みんなのホール

「夜明け前」の上映会と精神障がい分野における講演を行います。
午前に行う映画の上映会には今井監督によるトークイベント等も企画しています。

この機会にぜひご参加いただきますようお願いいたします。

詳細については別途お知らせします。

主催：社会福祉法人いぶき福祉会・社会福祉法人舟伏(共催)





開催期間

10/29 月曜日

11/30 金曜日

場所：岐阜信用金庫近島支店
岐阜市近島5丁目3-5

平日：9:00～15:00

観覧無料

岐阜信用金庫ロビー展

第2回

いぶき アート展

地域とつながり、
ゆめをつむぐアート展
いぶき福祉会の仲間の作品を
岐阜信用金庫近島支店に展示
していただきます。
お近くにお越しの際は、ぜひ
お立ち寄りください。

いぶきファミリー賛助会員への新規加入・更新をよろしくお願い致します

[振込先] 郵便振替：00840＝3＝91146 加入者名：いぶき福祉会後援会

[年会費] 個人：一口 2,000円 団体：一口 10,000円

[問合せ] いぶきファミリー（いぶき福祉会後援会）事務局
TEL 058-233-7445 FAX 058-232-9140
E-Mail ibuki@alto.ocn.ne.jp（タイトルに賛助会員と入れて下さい）



●オンラインでの入金もできるようになりました。下記アドレスやQRコードよりアクセスしてください。

いぶき福祉会canpan決済

<http://kessai.canpan.info/org/ibuki/>



●いぶきファミリーへの入会はJR岐阜駅の「ねこの約束」でも手続きしていただけます。

情報
掲示板





編集後記



約700万年前に人類が誕生したが、ほんの150年ほど前までは、移動の手段として徒歩という方法しか持たなかった。

最近酔狂にも、徒歩で東京日本橋から京都三条大橋までを尺取虫方式で歩いている。周りの者は「時間がもったいない」「疲れるでしょう」「一日何き歩くの」と聞かれる。

現代社会で歩くということは、最も遅い移動手段と考えられるが、飛行機や新幹線よりは遅いが、アリやミミズよりははるかに高速なのである。

生物にはそれぞれの移動適正速度があり、その速度内であれば互いに、ぶつかりけがをすることがないということだ。すなわち過度に緊張しなくても移動できるのが妙に心地よい。

電車や自動車、自転車ですえ「ヒト」という生物の「分」を超えた移動行為なのかもしれない。

編集長 林守男